産業としての観光へ 民泊推進の考えは

塔村俊介 議員

町長 できるだけ多くできるよう推進していく

問 観光文化協会が専用事務所、専任スタッフと体制が整った。まず、奥出雲町の観光産業の概要について問う。

答 平成27年度、町内の延べ入り込み客は約81万人。観光関連消費額は把握できるところで約7億円余りである。

問 産業としての観光を考える上で具体的な数値は非常に重要だ。観光関連消費額は飯南町で約10億円、庄原市で約42億円と算出している。観光関連で一番金額が大きく、固い支出は宿泊である。奥出雲町では、民泊スタイルがマッチすると思うが、推進の考えは。

答 民泊の受け入れ者は少ない状況である。できるだけ多くの民泊事業ができるよう推進していく。

問 大きなイベントでは宿泊所が足りない。空き家や空き住宅、高田小などを宿泊施設として活用の考えは。

答 本町の宿泊可能数は約400名余りであるが、大規模イベントの際は不足している。ウルトラマラニックでは車中泊していた人もいると聞いている。法律や費用負担、希望用途など課題があるが、様々な意見を聞きたい。

問 ホッケー場をはじめ様々なスポーツ施設なども利点だ。それを生かしたスポーツ合宿誘致、受け入れ環境整備の考えは。

答 東京五輪の事前キャンプの誘致を表明しているが、同時に町内のスポーツ環境を生かした合宿誘致を推進する。専門誌への情報掲載、合宿助成制度の創設を検討する。おもてなし日本一、のキャッチフレーズで頑張っていきたい。

問 助成制度は浜田市が1人1泊1千500円、ホッケーでも有名な富山県小矢部市では、市で1千円、県で700円、上限50万円などもある。学生は休み期間が長いため、効果も大きい。

「たたら侍」のオープンセットを利用した施設がオープン予定で1日2千名の来場を見込んでいる。また、足立美術館は過去最高の来館者を更新している。町にはランチの美味しい店がたくさんある。これを機に、ランチ誘客体制の考えを問う。

答 掛合にオープン予定の出雲たたら村は、2ヶ月間で20万人の来場を見込んでいる。絶好の機会とらえて、本町への誘客に取り組みたい。ランチも含め、町内を一日観光できるプラン等も作成し誘客に努めたい。

問 サイクリングターミナルのランチタイムが休業になった。貴重なランチの場所であり、多くの人が利用していた。今後、再開の予定は。

答 レストラン休業については、多くの皆様に多大な迷惑をかけていることと深くお詫び申し上げる。町民にとって貴重な交流の場であり、重要な観光施設と考えており、あらゆる角度から再開について、検討するのでいま少し時間がほしい。

問 様々な可能性を検討しながらも、早い復帰に向けて対応してほしい。

単発やモニターだけではなく、産業として、観光をどのように育てていくのか戦略が大事であるが、考えを問う。

答 現在、観光文化協会で観光振興プランを策定中である。現状を調査、分析し、観光戦略を構築していく。

スタッフが常駐する観光案内所